

## 助成事業実施報告書

団体名..... 自立援助ホーム きょうわ.....  
 代表者・役職名 氏名..... 施設長 中上 純二.....

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

きょうわの仲間で行くキャンプ合宿

## 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

明治33年、慈善救済事業が基となり、豊橋育児院として設立。昭和37年名古屋市に移転。乳幼児から高校卒業まで一貫して安定した生活できるよう乳児院と児童養護施設を併設。  
 平成24年に自立援助ホームを設立。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自立援助ホームに入所する児童は、家族旅行や学校からの就学旅行等の機会に恵まれず、新しい体験を得る機会が少ないのが現状です。それゆえ、趣味や仕事へのやりがいを見出す力も弱く、「生きる力」が弱い子どもたちが多いと感じていました。  
 自立を目指して生活をする中で、普段とは違う場所での経験をし、視野を広げ、今後に繋げてもらいたく、申請致しました。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

岐阜県の自然を学びに、鍾乳洞・牧場・キャンプ・ラフティングの体験をしに出かけました。その地域に生息する魚を学んで食したり、BBQでは自分達で食事の準備を行い食の大切さや料理の仕方を学びました。  
 長良川をくだるラフティング体験では皆で力を合わせてボートをこぎ、激しい川の流れるにのみこまれないよう助け合う力をつけ、ゴールした時には達成感を味わうことができました。

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPUCT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

様々な体験の中で、常に助け合うことが必要とされ、BBQでは役割分担をして準備、ラフティングではボートから川に落ちた児童を児童達で手を貸し助け合う姿が見られました。これまで施設内では仲の良い子同士のグループ行動が多かったなかでキャンプに行くことにより、誰とでも皆が積極的に関わりを持ち、施設内でも子ども達同士の会話が増えました。このように多くの人と助け合い達成するという経験が、今後の自立に役立つと考えています。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回のプロジェクト実施において、プランを職員で計画していましたが、子ども達にも意見をもらいながら進めれば更に意識を高められたかもしれないと考えています。  
 今回の体験を楽しかった思い出のみで終わらせず、自立に役立ててもらいたいと考えています。

## 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし